

自己評価・外部評価・運営推進会議活用ツール

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	分かりやすい理念を掲げ、理念を心掛け、教え合う体制を作っている。			
2	事業所と地域とのつきあい	事業所は、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、認知症の人の理解や支援の方法などを共有し、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑や隣接施設で行われるボランティア行事への参加や地域の行事への参加で交流していたが、いずれも現在は中止となっている。	地域への交流の為に外出することは施設の考え方に左右される。施設として今後どのように関わっていくかを改めて検討する必要がある。		
3	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議には、桑名市介護高齢課や地域包括支援センター担当者、家族代表、地域代表に参加頂き、サービスの実情を報告し、意見交換で出された助言等をサービスの向上に活かすよう努めている。	現状の継続と今後の向上を目指す。		
4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	主に運営推進会議の場で事業所の課題について伝え、意見を求めている。	コロナ禍で対面では充分にできていないが、書面等での連携を取ることができている。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年2回、身体拘束についての勉強会を行い、禁止の対象となる具体的な行為について周知し、3か月に一度委員会にて検討会を行っている。「言葉による拘束」に繋がる言葉かけを行わないよう、教え合う体制を作っている。自由にユニット間の交流をする環境は作れていない。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	言葉による拘束についても皆で検討実施されているのは良いこと。やむを得ない場合に限り認められる拘束についても学ぶ機会を設けていくといい。	
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待防止の勉強会、週1回のカンファレンスや月1回のミーティング、毎日の申し送りなどで常に注意と防止を呼び掛けている。	A. 充分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	虐待に繋がる職員のストレスへのケアと学びの機会を作っていくといい。	

7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	実際に必要な情報は職員へ伝達しているが、予め制度について学ぶ機会は作れていない。「成年後見制度の相談」についての市の案内書は、苑玄関の見易い所に掲示している。			
8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時の説明を行いながら疑問点に答え、入院時や制度の改定などによる状況の変化がある場合にも説明を行い同意を得ている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の思いを汲み取る様に努めている。家族の来所時や電話で、意見や要望を聞く機会を設けている。個別の対応が難しく、運営へ反映できないこともある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	定期的に利用者家族の意見や思いを聞き、出来る限り運営に反映する努力がされている。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	週1回のカンファレンスや、月1回のケアミーティングで職員の意見や要望を聞く機会を設け、日常的にも管理者に言える状況を作り、必要に応じ法人会議にかけている。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	資格取得の支援、勤務状況の把握、働き方改革への取り組み等を行い、向上心を持って働けるよう努めている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者と職員の面談での内容充実を図るとい
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	法人内外の研修を受ける機会が確保され、法人外研修は、管理者や職員の希望に応じて参加している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	計画的に研修を行い、記録を残している。職員の持つ力を活かせる職場環境づくりに今後も努める。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	三重県地域密着型サービス協議会や地域で行われる研修会、または、活動に参加することで同業者との交流ができるが、コロナの影響もあり参加の機会が減っている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑を「生活の場」として、家庭的で楽しい雰囲気大切に、お互い助け合えるよう、出来ることはお願いしている。			

15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	会話の中で懐かしい話をするにとどまってい る。Zoom 面会を利用する家族は半数に満た ず固定されてきており、電話での会話の希望 はない。電話や Zoom 面会を利用できる日時 を増やすことができていない。	短時間でも面会できるように早急に体制を整えた い。それによって、家族や馴染みの人との繋がりを 保てるように支援する。		
Ⅱ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、 一日の過ごし方の希望や意向の把握に努 めている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	ゆっくりとお話しを聞く時間がなかなか持て ないものの、生活の中で、「本人はどうした いのか」を聞き取り、または、感じ取ることで、意 向の把握に努めている。			
17	チームでつくる介 護計画とモニタリ ング	本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個別援助計画を作成し、週1回カンファレン スを行いモニタリングを実施。目標の達成度 について話し合い、本人、家族の意向や職員 の意見を個別援助計画に反映している。	計画作成の流れについてはこれまで通りとし、チ ームメンバーの意見を介護計画に反映させていく。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人・家族の要望取り入れと情報共有がされて いる。会議への家族参加があるといい。
18	個別の記録と実践 への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに 活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の様子やケアの実践は個別に記録し、 申し送りやカンファレンスでその情報を共有し ながら話し合っている。職員の気づきや工夫 については充分記録できているとは言えな い。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	記録の充実を図る。他の職員に分かりやすく、事 実を客観的になど。
19	一人ひとりを支える ための事業所の多 機能化	本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	一時的に継続した医療の必要が生じた際の 内科への通院支援を行っている。	現状のサービスを継続するとともに、新たなニー ズが生まれた場合は柔軟な対応をしていきたい。		
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができよ う支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	運営推進会議参加者からの助言等を、防災 や活動に生かせるよう努めているが、ボラン ティアの受け入れや地域行事への参加は令和2 年(昨年)以降行っていない。	公的機関(消防・警察・救急等)から、それぞれの 助言をもらえるような場を設けることや、市の委員 による生活に関する講演など、楽しみながら参加で きることを考えていきたい。		
21	かかりつけ医の受 診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	かかりつけ医を協力医に変更等の説明を入 居時にしている。週1回協力内科医の往診が ある。口腔や目の不調があった時は、本人や 家族の治療への意向を聞き、協力医へ伝えて いる。その他の医療機関への受診は、医療間 連携と家族の協力を得て行っている。			

22	入退院時の医療機関との協働	利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入退院時、医療機関との書面と口頭による情報交換を行っている。また、居室の確保についての家族との相談、退院の見込みがついた時からの病院関係者や家族との情報交換、退院に向けての相談に努めている。		<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	医療機関との情報交換ができている。医療機関と協働して、本人・家族の安心に繋がる支援を今後も続けていくといい。
23	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居時や体調に大きな変化があった時に、本人、家族、主治医、管理者同席で、重度化した場合や終末期についての話し合いと意向の確認を行っている。		A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調変化に合わせて、主治医から今後どういう方向で介護を進めていくかの説明があり、安心した。災害等、有事についても考慮し、意向等を書面に残すことを検討していく必要がある。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	隣接施設や竹の子苑で行われる勉強会で事故や急変時の対応や搬送までの流れを学ぶ機会を作っている。職員が自信を持って行動する為の、「実際に行動する訓練」は更に回数を重ねる必要がある。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	災害対応マニュアルを備え、年2回消防署員の指導の下、訓練を行っている。土砂災害を想定して、搬送方法の検討や備蓄品の見直しを適宜行っている。地震や土砂災害についても「実際に行動する訓練」の必要を感じているができていない。	危険箇所の具体的な把握とともに避難方法のマニュアルを具体的に作成することで、実践的な誘導訓練が出来るようにしていく。	A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入居者の命を守ることを最優先に考え、いざという時に混乱せず行動できるよう、マニュアル作成、訓練、BCP策定等に努めることが大切。マニュアルの再検討、利用者が不安にならないよう地震に備えての訓練、突発の訓練での実態確認や問題点の確認を行うといい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員自身が気付かない事もあり、気になる対応や言葉かけがあった場合には注意し合い、人格尊重やプライバシーの保護に努めている。		A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	今後も人権尊重とプライバシー保護の安心感を利用者様自身が持てる介護に努めていくことが大切。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	出来るだけ希望に沿う様に、個々の利用者のペースを保つよう配慮している。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない D. ほとんどできていない	三食とも法人の厨房で調理したものを苑で配膳している。テーブル拭き、ランチョンマット配りや自発的な下膳を利用者が行うこともあるが、殆どは職員が行う。食事前にメニューを伝えている。		A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	施設で炊飯しているのは良いこと。一部の方はランチョンマットを並べる、自発的に下膳するなど手伝いをし、食形態等個別に配慮されている。職員の支度ながら、音や香り、メニューを伝えることで食欲を高めている。衛生面を考慮しながら、食の楽しみを持ってもらう工夫をしていくことが大切。

29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	食事の様子観察、摂取量の記録をしている。食前の口腔体操、歯科に相談しながら噛む力の改善、ムラなく食べる為の声かけや食形態の工夫をし、個々の好みとタイミングに合わせた水分提供をするよう努めている。			
30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の力に応じ、声かけ、歯磨き、口腔清拭、磨き直し等の解除を行っている。タイミングにより、自分でする方の傍につくことができない場合がある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	口腔衛生は体調に影響する。毎日の習慣と歯科医等による定期検診が大切。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄の記録から、個々に合わせた声かけ、誘導等を行っている。また、トイレの場所を分かり易く表示し、トイレでの排泄、排泄の自立に向けた支援を行っている。便秘については、原因別の個々の対応が更に必要と思われる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々の排泄状況に合わせた声かけや便秘その他原因への対応ができています。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1人につき、週3回程度入浴できるようにしている。時間帯は決まっていますが、その中で本人の体調やその日の気分に合わせて、入浴の順番を変更したり、入浴日を変えるなどしている。			
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日中はなるべく活動的に過ごせるよう、手作業や運動の機会を作りながらも、一人一人の体調や希望に合わせて、適度に居室で休んだり、ソファでくつろいで過ごせるようにしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調の変化があった場合は薬との関係も意識し、薬情報で確認している。分からないことは、医師、看護師、薬剤師に相談し、指示を仰いでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	介護職も薬に関する最低限の知識は必要。服薬忘れや副作用等についても注意する。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	持てる力に応じた役割や楽しみ事を続ける支援は日々行っているが、一人一人の生活歴を活かすという点では不十分となっている。	一人ひとりの生活歴を活かせるように、会話の中からもその人の思いを汲み取り、記録するとともに把握している。生活歴と合わせて更に活かしていきたい。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍の中では、外出は通院と花見ドライブのみとなっている。隣接施設駐車場までの散歩や外食支援は現在は行っていない。1階テラスに出る機会を作っている。	一人ひとりの希望という面では、日常のささやかな希望(おやつ時の飲み物や入浴の順番、レクリエーションの希望等)のみとなっているのが現状。外出に関しては家族の協力も必要となるため、家族との連携を取っていきたい。		

		支援している					
37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人でお金の所持はしておらず、苑内で使う機会もない。外食支援行事で外出した際、品選びや買い物職員と一緒にいるが、コロナ禍の影響でできていない。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	携帯電話は自分で管理できる方に限って所持可となっている。手紙の返事を書く支援は本人の希望を聞いて行っている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	リビングには利用者と職員が一緒に作った季節毎の壁画を飾っている。温かいうちに食事が届き、職員が盛り付けを始めることで、食器の音や料理の香りがリビングに広がり、食事の時間が近いことを感じてもらっている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	穏やかな時間が流れている空間を感じることができる。皆さんが安心して過ごせるよう今後も工夫をしてほしい。季節毎の壁画作成で季節を感じる工夫がされている。生活感や季節感のある空間（花壇・竹林・物干し）がある。音や香りを大切に、落ち着いた空間作りの工夫をしている。	
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目（利用者一人ひとりの確認項目）							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	うまく他人の輪に入れず、職員が介入することも難しい場合もあるが、利用者同士の関りはほぼ良好で、個人や仲間同士で思う様に過ごすことができている。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	生活歴などを他人に伝えることが難しい方が多く、今の生活での友人関係、職員との関係を大切にしている。基本は、入居前の生活歴や習慣の情報をもとにしたケアを受けている。			
42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	体調変化に応じて適切な対応を受けることができている。また、事故が起きないように、生活環境への配慮を受けることができている。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の意思が分かり難い場合も、時間をかけている。ゆっくりと気持ちを汲み取る支援を今後も続けてほしい。	

43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	殆どの方がトイレや就寝、過ごしたい場所など、自分のペースで生活できている。どうしたいかを自分で決められない利用者は声かけを受け、一日の日課をこなすことができている。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近(自室等)に持つことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	写真や手紙、仏壇、アクセサリなどが身近にあり、安心を得る様子が見られる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	可能な限りの配慮を今後もしてほしい。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催(祭)事に参加することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. ほぼできている D. ほとんどできていない	コロナ禍の影響で外出ができていない。苑内行事や気分転換、または希望があった場合に竹の宿やテラスに行くことはある。	一人ひとり個別に、どんな事を望んでいるのか確認し、把握することから始める必要がある。自ら表現できない方には、今後も苑として出来る事に参加し体験してもらうことで、楽しめているかどうかを表情などから読み取っていききたい。		
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	「できること」「わかること」「したいこと」に取り組んでいる。時に、「できること」の発見に繋がることもある。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	皆がそれぞれ、利用者同士や職員との会話と交流の機会を持ち、苑の中ではあるが、歌、手伝い、体操など得意なことへの参加ができている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	出来ないことも、どうお手伝いしたら出来るのか工夫があるといい。会話、歌、危険がないところへの自由な移動と必要な場合の職員の付き添い等、楽しみを作ることができている。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍で交流ができていない。	出掛けていく事が難しい場合は招くという方法も有効であることから、今後は新たな面での可能性(例として、web での中継など)も探していきたい。		
49	総合	本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	苑に居ること、職員や利用者同士で過ごすことに安心感を得ている様子が見られる。家族や地域との交流に力を入れていく必要がある。	日常と、非日常(地域、家族との交流)を感じることで生活に変化をもたらし、より張りのある毎を送れるような支援をしていきたい。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	現状に甘んじることなく改善しようとする姿勢を窺うことができた。今後も安心、安全な施設づくりをしてほしい。入居者同士仲間を思い合っている。苑内で必ずお別れがある。その時の心境変化への配慮をしてほしい。